



氏名 倉地 克直 (くらち かつなお) 1949年生
所属 文学部・歴史学講座・教授

TEL 086-251-7409 (ダイヤルイン)

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/le/jhistory/niken-1.html>

ひとこと：日本文化史、なかでも近世民衆文化を研究しています。

江戸時代の岡山地域史にも取り組み、岡山大学が所蔵する池田家文庫の活用にあっています。その他、各自治体の自治体史、文化財の調査に関わっています。

1、日本近世民衆文化史の研究

古文書や文学作品、絵図・絵画などの資料を通して、近世日本の民衆文化全般について興味を持って調べています。

2、性と身体の近世史

近世民衆の性意識や自然観・身体観はどのようなものであったか。人々の生産や生活のあり方と関連付けながら考えています。

3、漂流に関する史料の研究

神力丸漂流事件を素材にして、漂流記録はどのように作られ、漂流体験はどのように伝えられたかを調査・研究しています。

4、近世における中山間地域の生活史

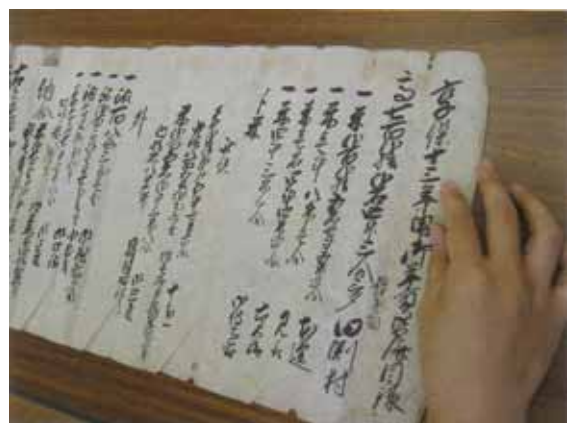
中山間地域は現在過疎化が進んでいますが、近世には平野部や海岸部とは異なる多様な生活が営まれていました。現在、町史編纂に従事している岡山県阿哲郡哲多町地域の史料を使って考えています。

5、池田家文庫のデジタルデータ作成

旧岡山藩主であった池田家の藩政資料のうち、絵図類や貴重書籍などのデジタルデータ化に取り組んでいます。あわせてその利活用について検討しています。



備前国九郡古図(池田家文庫)
寛永15年(1638)頃



地域で大切に伝えられた江戸時代の史料
(哲多町教育委員会提供)

キーワード：生活文化、男女和合、神力丸漂流事件、自他認識、国図絵・郡図、山野利用

キーワード用語集（倉地克直先生）

生活文化・・・「文化」というと、文学・思想・美術などが思い浮かぶが、他方、人間の営み全般を「文化」と捉える考えもある。近世の文化では、日常生活を価値のあるものと考え、豊かにしようとする営みとして考察することが必要だと考えられる。芸術作品も、当時の社会や生活との関わりで位置付けることが試みられている。

男女和合・・・近世民衆の性意識は、男女和合と特徴付けられる。これは、単婚小家族の「夫婦かけむかい」の生活に支えられたものである。この意識はまた、人間やその身体を自然と一体のものと捉える自然観・身体観とつながっている。ただし、こうした男女和合の意識が次第に家内和合へと変化していくことにも注目される。

神力丸漂流事件・・・岡山藩の江戸廻米を積んだ神力丸は、文政13年(1830)8月紀伊半島の潮岬沖で遭難、2ヶ月余りも太平洋を漂流した後、フィリピンのバターン諸島に漂着した。漂着時に5人が溺死したが残った14人は、マニラ・マカオから中国を経て無事帰国した。この事件については、幕府や藩の公式記録から民間で作られた実録物まで、多数の記録が残されており、漂流記録と漂流体験について考える格好の材料を提供している。

自他認識・・・人は他者を意識したとき、振り返って自己についてもある認識を持つようになる。その意味で、他者との出会いは重要である。近世人が「異国」や「異人」と出会う機会はそれほど多くなかった。そのなかで、漂流は他者と出会う貴重な経験で、それを通じて当時の民衆の自他認識を窺うことができる。また、当時正式の外交が結ばれていた朝鮮については、様々なかたちで近世人の意識を確認することができる。

国絵図・郡図・・・江戸幕府は、何回か諸国に国絵図の作成と提出を命じ、このため各地に、その控図や写図、それを基礎として民間で作られた絵図などが多く残されている。また、郡を単位とした絵図も多くあり、国絵図作成に関連したものやそれとは別の目的で作られたものがある。これらから、当時の地域景観を復元したり、人々の地域認識や空間認識を読み取ることができる。絵図と古文書とを合わせて研究することで、当時絵図がどのように使われていたかが理解できる。

山野利用・・・一般に近世で山野は、入会地として利用され、田畑の肥料となる下草や柴木などが刈り取られたと言われている。中山間地域では、それ以外にも材木の採取や楮・茶・漆などの栽培、焼畑としての開発など、多様な利用が行われていた。それにともなって、山野の景観も混合的な様相を示していた。山野の所有と利用について研究することは、中山間地域の生活を考える基礎となるものである。